

孫会社連結(S社を通じた間接保有: G社←80%←S社←75%←P社)の仕組み①B4

前提

- G社株式の80%をS社は85,000円で平成X2年12月31日に取得した。従って、G社の資産・負債/収益・費用はS社に80%、G社非支配株主に20%の割合で帰属する。
- G社は平成X3年度に5,000円の剰余金の配当を行った。その結果、S社は4,000円、G社非支配株主は1,000円を受取っている。
- のれんは発生年度の翌年から5年間で毎期均等償却を行う。

【連結修正後財務諸表(平成X2年度末～平成X3年度末)】

平成X2年12月31日		(単位:円)	
資産	150,000	負債	50,000
のれん	5,000	S社持分 (80%)	
		S社保有G社株式	85,000
		S社株主に帰属するG社利益剰余金	0
		G社非支配株主持分	20,000
	155,000		155,000

自平成X3年1月1日 至平成X3年12月31日		(単位:円)	
費用	100,000	収益	156,250
のれん償却額	1,000	受取配当金(S社分)	▲4,000
G社非支配株主に帰属するG社当期純利益	11,250		
S社株主に帰属するG社当期純利益	40,000		
	152,250		152,250

平成X3年12月31日		(単位:円)	
資産	201,250	負債	50,000
のれん	4,000	S社持分 (80%)	
		S社保有G社株式	85,000
		S社株主に帰属するG社利益剰余金	40,000
		G社非支配株主持分	30,250
	205,250		205,250

S社株主に帰属するG社当期純利益40,000円をS社株主に按分する為、S社損益計算書に振替を行う。

S社株主に帰属するG社利益剰余金40,000円をS社株主に按分する為、S社貸借対照表に振替を行う。

前提

- S社株式の75%をP社は160,000円で平成X2年12月31日に取得した。従って、S社の資産・負債/収益・費用はP社に75%、S社非支配株主に25%の割合で帰属する。
- S社は平成X3年度に40,000円の剰余金の配当を行った。その結果、P社は30,000円、S社非支配株主は10,000円を受取っている。
- のれんは発生年度の翌年から5年間で毎期均等償却を行う。

【連結修正後財務諸表(平成X2年度末～平成X3年度末)】

平成X2年12月31日		(単位:円)	
資産(S社保有G社株式以外)	315,000	負債	200,000
G社に対する持分 (80%)		P社持分 (75%)	
S社保有G社株式	85,000	P社保有S社株式	160,000
S社株主に帰属するG社利益剰余金	0	P社株主に帰属するS社利益剰余金	0
のれん	10,000	S社非支配株主持分	50,000
	410,000		410,000

自平成X3年1月1日 至平成X3年12月31日		(単位:円)	
費用	120,000	収益	200,000
のれん償却額	2,000	S社株主に帰属するG社当期純利益	40,000
S社非支配株主に帰属するS社当期純利益	30,000	受取配当金(P社分)	▲30,000
P社株主に帰属するS社当期純利益	58,000		
	210,000		210,000

平成X3年12月31日		(単位:円)	
資産(S社保有G社株式以外)	355,000	負債	200,000
G社に対する持分 (80%)		P社持分 (75%)	
S社保有G社株式	85,000	P社保有S社株式	160,000
S社株主に帰属するG社利益剰余金	40,000	P社株主に帰属するS社利益剰余金	58,000
のれん	8,000	S社非支配株主持分	70,000
	488,000		488,000

(借)G社に対する持分は(貸)P社持分/S社非支配株主持分に按分する。
∴G社資産・負債の80%とのれんが75:25の割合で各持分に帰属する。

※ 連結財務諸表作成に当たっては、黒太字の科目・金額を集計します。

なお、G社のS社株主に帰属する当期純利益40,000円・利益剰余金40,000円はS社において再度按分される為、集計の対象にはなりません。従って、太字では表示していません。

因みにこれらS社株主に帰属する当期純利益40,000円・利益剰余金40,000円は単純合算後の財務諸表において貸借相殺されます。同様に連結集団が保有する子会社株式・孫会社株式についても貸借相殺されます。

孫会社連結 (S社を通じた間接保有: G社←80%←S社←75%←P社) の仕組み① B4 練習用①

前提

- G社株式の80%をS社は85,000円で平成X2年12月31日に取得した。従って、G社の資産・負債/収益・費用はS社に80%、G社非支配株主に20%の割合で帰属する。
- G社は平成X3年度に5,000円の剰余金の配当を行った。その結果、S社は4,000円、G社非支配株主は1,000円を受取っている。
- のれんは発生年度の翌年から5年間で毎期均等償却を行う。

【連結修正後財務諸表(平成X2年度末~平成X3年度末)】

平成 X2 年度 G 社貸借対照表				平成 X3 年度 G 社損益計算書				平成 X3 年度 G 社貸借対照表									
平成 X2 年 12 月 31 日		(単位: 円)		自平成 X3 年 1 月 1 日 至平成 X3 年 12 月 31 日		(単位: 円)		平成 X3 年 12 月 31 日		(単位: 円)							
資	産	150,000	負	債	50,000	費	用	100,000	収	益	156,250	資	産	201,250	負	債	50,000
のれん				のれん償却額				受取配当金(S社分)				のれん					
/		S社持分		G社非支配株主に帰属するG社当期純利益		/		/		S社持分		/		S社持分			
		S社保有G社株式		S社株主に帰属するG社当期純利益						S社保有G社株式							
		G社非支配株主持分								G社非支配株主持分							

前提

- S社株式の75%をP社は160,000円で平成X2年12月31日に取得した。従って、S社の資産・負債/収益・費用はP社に75%、S社非支配株主に25%の割合で帰属する。
- S社は平成X3年度に40,000円の剰余金の配当を行った。その結果、P社は30,000円、S社非支配株主は10,000円を受取っている。
- のれんは発生年度の翌年から5年間で毎期均等償却を行う。

【連結修正後財務諸表(平成X2年度末~平成X3年度末)】

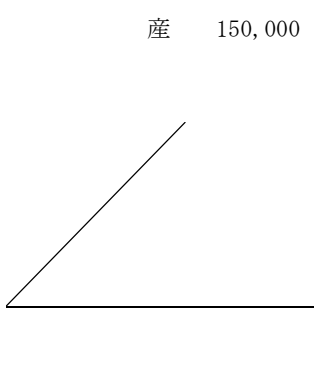
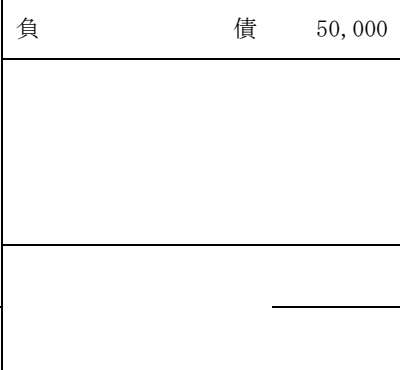
平成 X2 年度 S 社貸借対照表				平成 X3 年度 S 社損益計算書				平成 X3 年度 S 社貸借対照表							
平成 X2 年 12 月 31 日		(単位: 円)		自平成 X3 年 1 月 1 日 至平成 X3 年 12 月 31 日		(単位: 円)		平成 X3 年 12 月 31 日		(単位: 円)					
資産(S社保有G社株式以外)	315,000	負	債	200,000	費	用	120,000	収	益	200,000	資産(S社保有G社株式以外)	355,000	負	債	200,000
G社に対する持分		P社持分		のれん償却額				S社株主に帰属するG社当期純利益		G社に対する持分		P社持分			
S社保有G社株式		P社保有S社株式		S社非支配株主に帰属するS社当期純利益				受取配当金(P社分)		S社保有G社株式		P社保有S社株式			
S社株主に帰属するG社利益剰余金		P社株主に帰属するS社利益剰余金		P社株主に帰属するS社当期純利益				/		S社株主に帰属するG社利益剰余金		P社株主に帰属するS社利益剰余金			
のれん		S社非支配株主持分								のれん		S社非支配株主持分			

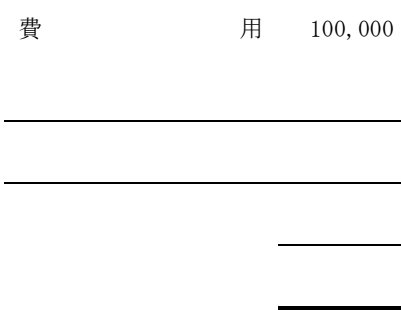
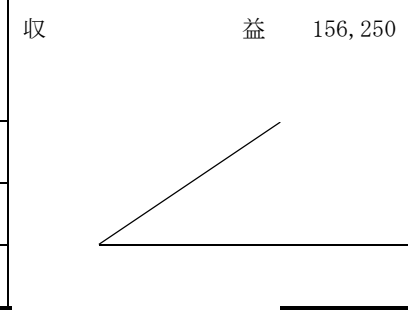
孫会社連結 (S社を通じた間接保有: G社←80%←S社←75%←P社) の仕組み① B4 練習用②

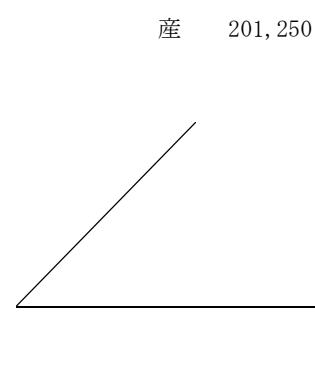
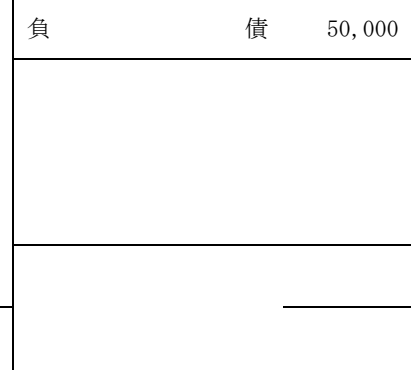
前提

- G社株式の80%をS社は85,000円で平成X2年12月31日に取得した。従って、G社の資産・負債／収益・費用はS社に80%、G社非支配株主に20%の割合で帰属する。
- G社は平成X3年度に5,000円の剰余金の配当を行った。その結果、S社は4,000円、G社非支配株主は1,000円を受取っている。
- のれんは発生年度の翌年から5年間で每期均等償却を行う。

【連結修正後財務諸表(平成X2年度末～平成X3年度末)】

平成X2年12月31日		(単位:円)	
資	産	150,000	負債 50,000
			

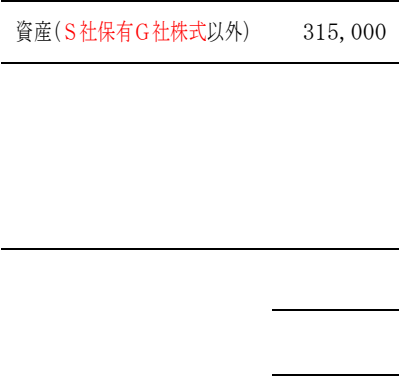
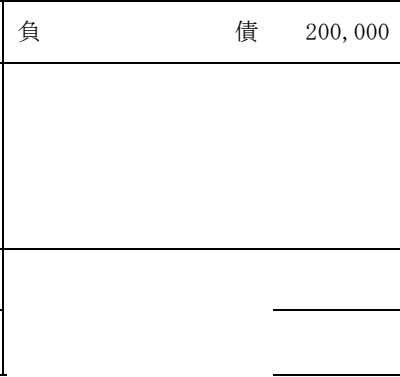
自平成X3年1月1日 至平成X3年12月31日		(単位:円)	
費	用	100,000	収 益 156,250
			

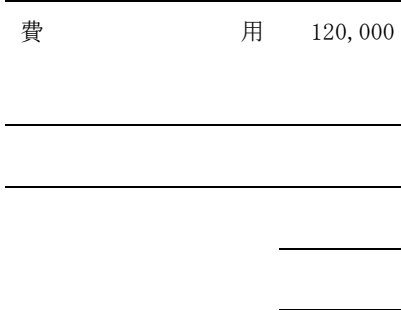
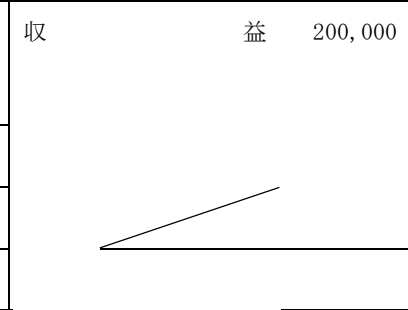
平成X3年12月31日		(単位:円)	
資	産	201,250	負債 50,000
			

前提

- S社株式の75%をP社は160,000円で平成X2年12月31日に取得した。従って、S社の資産・負債／収益・費用はP社に75%、S社非支配株主に25%の割合で帰属する。
- S社は平成X3年度に40,000円の剰余金の配当を行った。その結果、P社は30,000円、S社非支配株主は10,000円を受取っている。
- のれんは発生年度の翌年から5年間で每期均等償却を行う。

【連結修正後財務諸表(平成X2年度末～平成X3年度末)】

平成X2年12月31日		(単位:円)	
資産(S社保有G社株式以外)	315,000	負債	200,000
			

自平成X3年1月1日 至平成X3年12月31日		(単位:円)	
費	用	120,000	収 益 200,000
			

平成X3年12月31日		(単位:円)	
資産(S社保有G社株式以外)	355,000	負債	200,000
